



真宗高田派本山 専修寺

高田本山だより

令和6年 夏号

138



高田本山 HP

令和6年夏号（第138号）／発行・令和6年6月14日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp

三重県を舞台に開催される
平和を願う自動車文化の祭典
「クラシックカーカフェ」が
高田本山に立ち寄ってください
いました。
小さな子たちの歓声のなか
たくさんの笑顔の輪がひろが
りました。



中学生教化合宿



はなまつり

あの人に会えますか



先日のこと。一年前に七十歳という若さで亡くなられたある男性の一周忌を勤めさせていただいた時のことです。

その亡くなられた男性の妻にあたる女性の方に、「ずっと気になっていたのですが、もし私が死んだらまた夫に会えるのでしょうか」と聞かれました。「やっぱりもう一度会いたいですか」と声をかけると、「はい。どうしても会いたくて、毎日しかたがないんです」とおっしゃられていました。

あらためて考えさせられたのですが、私よりも先に逝かれてしまったあの人は、今いつたいてどこで何をされているのでしょうか。また、この私も命を終えたらその後はいたいどうなっていくのでしょうか。

「死んだらどうなるの」と、誰し

も考えたことがあると思います。しかしながらこの問いに明確な答えを出すのは難しい。今の世の中、気になったことはパソコンでもスマホでもちよつと検索すれば、ポンつと正確な答えが簡単に手に入る便利な世の中となっています。ただ、「死んだらどうなるの」という問いへの答えは、どこを探してもなかなか見つからないのではないのでしょうか。

そんな中、真宗にはこの問いへの明確な答えが説かれています。親鸞聖人は晩年、門弟の方に「私は、今はすっかり年老いてしまい、きつとあなたより先に往生するでしょうから、浄土で必ずあなたをお待ちしております」とお伝えにされたそうです。

この言葉こそが答えであるよう

に私には感じられます。

すなわち、先に逝かれてしまったあの人は、阿弥陀様のお浄土へと生まれ行き、仏様となられて、今お浄土の世界から私たちを見守り、支え、導いてくださっております。そしてこの私も、命を終えたらお浄土へと生まれ行き、先に逝かれたあの人と一緒に今度は、今を生きている人たちをただ見守り、支え、導かせていただくことでしょう。

この私の命に意味と目的地をもたらし、終わりの「死」を始まりの「死」へと変える御教え。それが真宗なのだといえましょう。

愛知五組 浄泉寺衆徒

戸田栄信



山門二階の釈迦三尊像

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075) 371-0854・8181～2番
FAX (075) 344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 野村守宏

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

浄土真宗なんでもQ&A

おつとめについて

「がんにしくどく」ってなんですか？

おつとめの終わりに聞こえる

「がんにしくどく」の声。

この偈文（佛の功德を讃めたたる定型詩）を私たちは「廻向文」と親しみます。

「廻向」とは「自ら修めた功德を、自らのさとの為に、または他者の利益の為にめぐらし、さし向けること」と解釈され、通常は「わがみをたのみ、わがこころをたのみ」自力で行われる行であると示されますが、浄土真宗ではこの心をひっくり返して頂く所に、大切な味わいがあるのです。

冒頭の「廻向文」（左図参照）は、御開山親鸞聖人が「七高僧」のおひとりと仰がれた善導大師の『観経疏』というお書物にたずねる事ができます。

願以此功德 願わくばこの功德をもちて

平等施一切 平等に一切に施し

同発菩提心 同じく菩提心を発して

往生安楽国 安楽国に往生せん

『高田意訳聖典』より

ここから、御開山のお示しを通して味わってみましょう。

【現代語訳】

「この功德が平等に全ての人々に施され、皆同じく他力の信心を発し、阿弥陀如来様のお浄土へ往生したいと願う」

特に注意したいのは、一行目に示された「此功德」を、私の功德とすると、おつとめの意義を取り違えてしまう点です。

浄土真宗は自ら修めた功德をたよりにする佛道ではなく「自身の煩惱に振り回されて生きている私」こそ目当てとする、阿弥陀如来様のご廻向（本願他力）によってすぐわれる御教えです。

つまり「此功德」とは、全てのものを救わんと喚びかけられた「南無阿弥陀佛」の太音声ですから、「廻向文」より「このおつとめは全てわれらのためであった」と聞かされつつ、導かれたお念佛の声にうなだれ、深くうなずかせて頂きたいものです。

最後に、四人の子に先立たれる深い悲しみと共に念佛に出遇われ

た、石見（島根県）有福の妙好人（お念佛を慶ばれる人の尊称）善太郎さんのお味わいを聞かせて頂きましょう。

おがんで

たすけてもらうじやない
おがまれてくださる

によらいさまに

たすけられて

まいること

こちらからおもうて

たすけてもらうじやない

むこうからおもわれて

おもいとらるること

この善太郎

私はほとけさまを拝んでいると思いがちですが、私が「南無阿弥陀佛」と申すよりも前に如来様の方から、こちらを願われ拜んでおられたのでした。

如来様のお慈悲にたつぷりと浴するおつとめの肝要を、今日も「廻向文」に聞かせて頂きましょう。

（教学院第三部会）



毎週月曜日 よる7時
(毎週土曜日 ひる12時再放送)
TVで視聴し配信中!

三重テレビ放送
夕方5時40分から生放送
三重テレビアプリで
簡単メッセージ!

一筋

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠
高級御影石専門店
御影石材株式会社
(石に御用の方は) イシニゴヨメ
☎0120-142540
本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

「燈炬殿だより」

新宝物館、開館からの一年を振り返る

新宝物館「燈炬殿」が落成してからほぼ一年が経ちました。そこで、この間、新宝物館が、与えられた三つの役割をどのように果たしてきたかを振り返ってみたいと思います。

第一の役割は、親鸞聖人ゆかりのものを始め、法宝物を大切に未来へ伝えることです。現在、法宝物を収める収蔵庫について、最適の保存環境を整えるための調整を行っています。

第二の役割は、法宝物についての調査・研究です。この役割を効果的に果たすため、本山教学院、高田短期大学仏教教育研究センター、三重県総合博物館、学習院大学をはじめ、多くの機関や専門家の協力を得られる仕組みづくりを模索中です。

第三の役割は、檀信徒の皆様はもちろん一般の皆様にも専修寺のすばらしさを広くお伝えする展示・広報です。この一年、「知られざる専修寺の至宝」、「見真大師と聖徳太子」、「お七夜さんって知ってる?」、「伝燈」、

「真慧展」と五つの企画展を開催しました。延べ百八十四日の開館期間中、合計八千五十八名に来館いただきました。おかげで、一日平均四十四名と、当初目標の四十名の目標を達成できました。

直近の第五回企画展「真慧展」は、高田短期大学の「仏教教育研究センター」による「影印 翻刻 現代語訳 顕正流義鈔」の出版を記念しての開催でしたが、この展示では、真慧上人ゆかりの品々十五点を九力寺からお借りしました。上人に対する深い敬愛の念抜きには、長きにわたってゆかりの品々が各寺院で守られることはなかったでしょう。この展示は、敬愛の念が五百年近くにわたって続くほどの優れた指導者を輩出した高田派の力を示すものともなりました。

さて、本年五月の第百八〇宗議会では、検討を重ね定められた宝物館についての規程が報告されました。今後は、規程に従って、より効果的

かつ適正に三つの役割を果たしているようになりました。

今夏は、八月一日より九月二十九日の会期で仏教文化講座特別展「学山高田の文化」を開催します。茶をたしなみ、都や地元の文化人とも広く交流された第十七世円猷上人と「勸学堂」を建てて、安居を奨励された第十八世円遵上人をはじめとした歴代上人ゆかりの品々を通し、江戸中後期に高田派の教学・文化とともに隆盛した様子をご覧いただきます。是非とも多くの皆様にご来館いただきますよう、心よりお願い申し上げます。



円遵筆 勸学堂額（高田学苑蔵）

伝統を引き継ぐ左官職人舎

一層築舎

Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

建築工事 / 左官工事 / 外構工事 / 現場施工管理

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : sochikusya@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店

代表取締役社長 今岡規代

●本社

京都市下京区堀川通

新花屋町角(西本願寺前)

Tel 075-351-1234

Fax 075-341-7905

●東京店

160-0008

東京都新宿区四谷

二栄町十四番地二一

Tel 03-3358-1500

Fax 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから →



栃木県の本寺専修寺と 長野の善光寺をめぐる

五年ぶりに中学生教化合宿



長野善光寺にて

コロナ禍で中止されていた中学生教化合宿がようやく再開されました。今回は栃木県の本寺専修寺と長野県の善光寺をめぐりました。

二泊三日のバスでの長旅でしたが、高田高校の仏青インターアクトクラブの皆さんのレクレーションで、かえって楽しい時間となりました。

知らない人ばかりで緊張していた皆さんも、スマホそっちのけでいっぺんに仲良しになりました。

一日目、真宗の源流といわれる栃木県真岡市高田の本寺専修寺では、栗山輪番をはじめ地元の皆様の大歓迎を受けました。親鸞聖人の御廟や御影堂、如来堂、修理中の山門やお住まいであった三谷の

草庵など深い高田派の歴史に触れることができました。

翌日は長野県の「しもすわ今昔館おいでや」で時計づくりの見学をしてから、善光寺門前の宿坊「淵之坊」に宿泊。楽天全国宿坊ランキングベスト10の精進料理に「おいしい」「こんな料理は初めて」との声があげられました。翌日早朝からの善光寺のお勤めにも全員参加。長野郷土史研究会の小林会長ご夫妻直々のご案内で、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

中学生教化合宿に参加した 中学生の感想（一部抜粋）

◎今回、普段は経験のできないような貴重な体験をすることができました。

移動時間は長かったですが、日にちを重ねるうちにその時間さえ短く思えるような関係を皆さんと築くことができ、三日間があつという間に終わってしまいました。

色々な方からお話を聞き、普段見れない場所まで見せていただき真宗高田派の知識を深めることができました。コロナの影響であまり仏教行事を経験することがなかった学年なので高田に関するお話をいろいろ聞くことができとても良かったです。

特に印象に残ったことは善光寺のおまいりに参加したことです。おまいりがあることも知らなかったし、早朝からのお勤めもしたことがなく、全てが初めてで今でも記憶に残っています。お経の切れ目が変わったり、となえる言葉も変わるのですごく興味深かったです。お念珠を頭に授けてもらうことも初めはどうしたらいいかわか

りませんでした。七列目に座するなど色々知ることができて良かったです。この合宿や学校で学んだことを忘れず、大切にしていきたいです。仏教や高田本山について知ることができ、とても楽しいのでぜひ中学生のみなさんには参加して色々な考え方を身につけて欲しいです。

◎私は、この合宿で様々な経験をし、いろいろな思い出を作ることができました。

真岡井頭温泉では、サウナに入って疲れを癒すことができました。本寺専修寺では、高田派の歴史について、輪番さんが教えて下さいました。夜は、みんなでおかしを食べながら、高田高校の先輩方も一緒に、輪ゴム鉄砲で紙コップを打ち落とす射撃ゲームをしました。他の参加者と交流し仲良くなることができました。

二日目の朝ごはんでは、栃木県の名産であるイチゴが出されました。その後、御影堂の床をふき掃除しました。次の目的地に行くまでの道のりでは、私が持ってきた人狼ゲームをして遊びました。しもすわ今昔館おいでやでは、様々

な時代の時計を見ることができました。近くのおみやげ屋さんで買ったようかんは、家族にとっても喜ばれました。宿では精進料理が出てきました。初めて食べましたが、どれもとてもおいしかったです。

三日目は、朝早くから善光寺へ参拝しに行きました。私は少しウトウトしてしまいました。その後の自由時間では、山門の上に行ってみたり、周囲を散策したりしました。

この合宿を通して、私は、お寺を任されるのはどのような人なのか、ということを知ることができました。最後になりますが、この合宿に関係してくださった皆様、本当にありがとうございました。

◎中学生教化合宿の三日間は、参加者全員が成長することのできた貴重な時間だったと思います。

高田本山から出発したはじめは、全員が初めて会う人に緊張していて、バス内は静かな状態でした。しかし、バス内でのレクリエーション等の交流や、行く先々でのフィールドワークを通して、次第に打ち解けることができ、気がつ



善光寺仁王門



おいしかった精進料理



親鸞聖人像

くと、バス内は賑やかになっていました。私たちが訪れた先々では、さまざまな方々に案内をしていたことができました。その一つ一つの大切な機会を通して、新たな学びや、考えに触れることができ、知識面で成長することができました。それに加えて、さまざまな方と出会うことにより、社会性やコミュニケーション能力等の面でも成長することができたと思います。

このように、中学生教化合宿の三日間では、さまざまな点で成長することができた貴重な時間となりました。私は、今回成長できた

ことをこれからも伸ばしていきたいと思っています。

◎中学生教化合宿に参加させていただきありがとうございました。

一日目は本寺専修寺に泊まって、二日目は御影堂のふきそうじをしました。その時のぞうきんは今でも大切に持っています。

専修寺に泊まることができましたのは一生の思い出です。

善光寺に行つて朝早くおまじりに行きま



(重文) 本寺楼門解体修理見学



親鸞聖人の御廟

した。とてもお経の声や雰囲気が良い思い出になりました。きがついたら僕は仏青部に入っていました。三日間通していい経験になりました。

◎バスでの長旅は初めてだったので、少し不安もありましたが、非常にくつろげて、想像以上の素晴らしい旅でした。そして、多くの経験が私にとっては新鮮で、この三日間は大変充実したものでした。

最も私が感動したものは、文化財の修復現場を見せてもらったことです。修理する部分に新しい年代の木を使うのではなく、なるべく周りと同じ年代の木を使おうという精神に感動しました。

本寺専修寺では、一般に入ることができないお堂に入ることができ、遠くからでは気づけない、天井や細部にどこにされているデザインを知ることができました。

一日目の宿では、お宿の方が私たちにとてもやさしく接してください、心が温まりました。二日目での宿坊では、おかみさんのやわらかな笑顔に長いバスで疲れた体がいやされました。最終的に、

みんなで仲良く楽しめたので、すごくよかったと思います。少人数ならではの深い交流ができたと思います。



本寺で記念撮影



御影堂のふきそうじ



栗山本寺輪番とせんべいちゃんのお見送り

中学生教化合宿は来年も開催する予定です。中学生ならどなたでも参加できますので、皆様ふるってご参加ください。

こんな行事がありました

第74回檀信徒研修会・涅槃会

3月14日の檀信徒研修会で、新しくお寺の役員になられた方など、老若あわせ多くの熱心なご出席がありました。より仏教に親しんでいただけますよう、東海最大級といわれる本山の仏涅槃図の絵解き解説と、燈



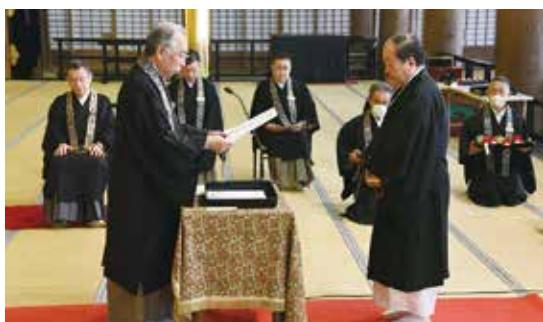
はなまつり

4月21日、5年ぶりに「はなまつり」が開催され、如来堂から宗務院まで、みんなで白象を引いて行進しました。そのあと仏青の皆さんの楽しいレクリエーションで楽しく遊びました。



降誕会

5月21日の親鸞聖人降誕会には、祖師寿と本山褒章の表彰がありました。



人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生まれる情報発信や
プロジェクトをサポート！

三重に暮らす・旅するWEBマガジン

OTONAMIE

otonamie \14,500フォロワー突破！/
mail otonamie@gmail.com
tel 059-268-3538 (壽印刷工業株式会社)



お寺の実績
紹介記事

お寺とともに
地域をつくる。

永田文昌堂

最新刊

①釈迦牟尼仏陀伝
～初転法輪への道～

富尾 武弘著

定価3,850円(税込)

本書は、『方広大莊嚴經』に基づき、仏陀の伝記であるボロブドゥール寺院の百二十面全ての浮彫パネルを、釈迦伝の全容を示すものとして解説する。釈尊の成長に合わせ、種々な体験等を経て、大乘仏教成立に至る過程、「初転法輪」迄を解説する。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

最新刊

②『大無量寿經』読本 1

北塔 光昇著

定価1,320円(税込)

『大無量寿經』を初めて学ぶ方々にも、話し言葉で簡易に読める解説書。読みやすい分量に数回にわけて、『大無量寿經』を味わう。今回の読本1は、『大無量寿經』を読み進めるに当たって必要な基礎的知識を中心にまとめる。

讃佛会

3月17日から23日まで讃佛会が勤まり、4月24日には本山護持会の追弔法会と総会が勤まりました。



写生大会・和プロジェクト

写生大会は24名、遠くは県外からの参加がありました。花まつりの日に表彰式が行われました。また次世代への文化継承、世界平和の実現をうたう「和プロジェクト」の揮毫があり、書家の先生と高田学苑書道部の力強い作品が生まれました。



■高田本山講員募集■

高田本山では、本山行事等にお世話いただく講員さんを募集しております。

真宗のみ教えを学び、現代の人々に真宗のすばらしさをお伝えする妙好人となって、第2の人生を本山にご奉仕してみませんか。

「講社とは」

檀信徒で構成する本山奉仕団体で、篤信の方々はじめ各地区の有志に参加していただき、講員としての活動をします。特に参詣者の接待や参詣の便宜を図ると共に、聞法や研修に務めながら、本山護持に寄与していただきます。

募集要項

1 奉仕内容

講社名	奉仕内容
御飯講	毎朝の御仏飯のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備
御廟講	納骨に関するお世話・行列のお世話
賽銭講	両堂のお賽銭の管理・両堂警備
用度講	行列のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備

2 奉仕場所 高田本山内

3 奉仕時間 当番は9:00～15:00
(講によって奉仕時間が異なる)

4 奉仕条件 高田派の寺院に所属する檀信徒

5 募集申込 下記へ問い合わせ下さい

問い合わせ先 〒514-0114 津市一身田町2819
真宗高田派本山宗務院 ☎(059)232-4171

寺院名

法会・行事案内

- 第五十七回高田派婦人連合大会 六月二日
- 真宗高田派仏教保育講座 六月十六日
- 高田派青年の集い 六月二十九日～三十日
- 歓喜会 八月十四日～十六日
- 第三十回法話発表会 九月五日
- 仏教保育本山合同参拝 九月二十日

 YouTube
専修寺チャンネル



宝
開
国
公

どこでもつながる国宝彫刻群

高田本山 デジタルブック

検索



<http://www.senju.or.jp/nihonhaku/digitalbook/index.html?pNo=1>